

ジュゴン Vol.61

ちゃんぶるニュース



2012. 3. 20

CONTENTS



- 2 情勢・普天間の即時閉鎖を やめ
 - 3 評価書に関する知事意見の意義
 - 4 アセス訴訟 集中審理
 - 5 カンジュン村国際平和会議
 - 6/7 活動報告
 - コラム「済州の四・三事件」
 - 8 お知らせ

辺野古への飛行場建設事業に関するアセス評価書に対する沖縄県の知事意見が出されました。3月27日にも埋め立てに関する知事意見が出されます。沖縄防衛局は評価書総合評価では「環境保全上、特段の支障は生じない」としていますが、沖縄県は科学的な見地から膨大な問題点を指摘し、「環境の保全上重大な問題があると考える」「示された環境保全措置等では、事業実施区域周辺域の生活環境及び自然環境の保全を図ることは不可能と考える」と厳しく批判しました。

隣接する宜野座村松田区の区長も、「米軍機が集落上空の飛行を基本的に回避する」とする評価書記述に対し、「今でも集落上を飛んでいるのに、新基地を造って飛ばないとは考えられない」と防衛省の無責任な評価内容に疑問を発しています（琉球新報2/21）。

辺野古アセス評価書と世界の心

ジュゴンへの影響にも科学的に多くの問題点が指摘され、周辺の生活環境への問題にも多くの指摘が挙げられています。このような日本政府の無責任な姿勢が、どうして許されているのでしょうか。国連の人種差別撤廃委員会は日本政府に責任ある見解や現状説明を求める決議を採択しました（琉球新報3/14）。世界が注目する中で、顔を上げて歩ける国でありたいのです。

今年9月には、韓国済州島で国際自然保護連合（IUCN）の第5回世界自然保護会議が行われます。一昨年の名古屋での生物多様性条約締約国会議（COP10）から2年が経ちますが、日本は世界の地球環境を守る流れから取り残されずに歩んでいけるでしょうか。子や孫たちに命の海を残してあげたいと辺野古で座り込みを続けるおじいやおばあの願いを、世界の人々とつながって実現していくよう9月6日から15日に開かれるIUCN会議に向けて応援どうぞよろしくお願ひします。

(関西 海勢頭聖)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>



[EMAIL] info@sdcc.jp

SDCC ハングル 講座～

—— 第2回：会場で使えるかな？ ——

◆듀공을 보호합시다.? (ジュゴンを守ろう)

デュゴングル ポホハシダ

◆내일 또 만납시다. (明日また会いましょう)

ネイル ット マンナッシュダ

情勢

普天間基地の即時閉鎖を求める世論を広げましょう

日米両政府は、2006年年の在日米軍再編計画(米軍再編のロードマップ)を見直すことを2月8日に発表しました。海兵隊のグアム移転規模を8000人から4700人に縮小する。「一体の計画」だった普天間移設を切り離して、海兵隊移転を先行させる。これが再編計画見直しの柱です。国防費の削減を求める米連邦議会の了解と、オバマ大統領が1月に発表した「アジア重視」(対中国戦略)の新国防戦略に基づくものです。4月末の日米安全保障協議会(2+2)をふまえて、5月初め日米首脳会談で「共同声明」を発表すると言われています。

今回の「ロードマップ見直し作業に着手」との報道以来、一部の本土マスコミは「普天間基地の固定化」、「辺野古への移設実現を」キャンペーンをはっています。宜野湾市長選挙での保守系市長が誕生したことを受け、「民意は反基地ではない」と沖縄と本土の分断を図っています。沖縄県民の大半が普天間基地の

県外移設を求めており、当選した保守系の宜野湾市長も「県外移設」「固定化阻止」を公約していることを報道していません。老朽化した普天間基地の即時閉鎖こそが、世界一危険な基地周辺の宜野湾市民を守る方法であり、沖縄県民が求めていることです。ましてや、垂直離着陸輸送機MV22オスプレイが配備されれば危険性は限りなく大きくなることは誰の目にも明らかです。

沖縄県知事は、辺野古への新基地建設は「環境の保全上、重大な問題がある」と175件の問題点が指摘されました。環境保全措置は「事業実施区域周辺域の生活環境及び自然環境の保全を図ることは不可能」と判断しています。沖縄防衛局が埋め立て承認申請しても沖縄県知事は認可できないのです。日米両政府は、1996年普天間返還の合意以来、県内移設に時間と労力をかけてきたことを反省し、5月初めの首脳会談で普天間基地の即時閉鎖を合意すべきです。本土からも普天間基地の即時閉鎖を求める輪を広げましょう。

不正投票監視団を取り組んで ～宜野湾市長選挙～

2月12日午後9時の開票から1、2回目は伊波候補がリード。しかし、3回目では200票の差で逆転。しばらくしてNHKが相手候補に当確を打つ。「ウソー」、誰もが予想もしなかった結果に静まり返る。選対事務長が敗北を宣言。伊波さんは「ネガティブキャンペーンで若い人の接点が作れず、政策を伝えることができなかった」「若干の油断もあった」と唇をかみしめる。

佐喜眞淳(前県議)2万2612票、伊波洋一(元市長)2万1712票、投票率が63.90%。史上3番目の高投票率。

2年前の名護市長選挙での不正投票監視団活動をふまえて、毎日10人前後の仲間とともに「押しつけ投票は違法です」の旗を持ち、市役所前で企業ぐるみ選挙を監視しました。その甲斐あってか、期日前投票は前回を1320人下回る6541人。有権者の9.3%でした。

感想を一つ二つ。主なネガティブキャンペーンは「出戻り論」。市長の任期を半年残して知事選挙に出た人が、また市長選挙に戻ってきたとの批判です。これに打

ち勝つ知事選挙ほどの体制が作れませんでした。次に、「伊波前市長なら勝てる」との若干の油断がありました。厳しい生活状況の下で、佐喜眞陣営が「基地の県外移設。普天間の固定化阻止」という一方で、「基地問題も大事だが生活も大事」「知事と一緒に予算を取ってくる」と訴えたことが浸透したと思います。佐喜眞新市長には「県外移設」「普天間の固定化阻止」の公約履行を強く求めたいです。
(事務局 蟹川義章)



辺野古アセス(飛行場)評価書に関する知事意見の意義について

沖縄県知事は2月20日、沖縄防衛局に「辺野古アセス評価書の飛行場建設に関する意見」を出しました。「(現行計画では)生活環境、自然環境の保全を図ることは不可能」とオスプレイやジュゴンなど25項目175件について科学的な観点から問題点を指摘しました。そして、「(米軍普天間飛行場の)県外移設が合理的」と辺野古新基地建設の見直しを要求しました。これは県環境影響評価審査会の答申を踏まえたもので、15年にわたる地元住民をはじめ国内外の闘いの成果です。沖縄県は知事意見の提出に向けて、市民意見を広く求めました。環境影響評価法をこえる画期的な沖縄県独自の取り組みです。ここにも環境影響評価制度を活用して闘ってきた運動の成果が表れています。SDCCは県環境影響評価審査会に「ジュゴンの生息場所及び移動の範囲」「辺野古地区前面の海草藻場の利用状況」など評価書の問題点を指摘する意見を出すことで、県審査会の学者研究者の頑張りを支えました。

沖縄防衛局は今後、「辺野古アセス評価書の公有水面埋め立て事業に関する知事意見」(3月27日提出期限)をふまえて、評価書の補正、補正した評価書の公告総覧(1か月間)を経て、新基地建設のための埋め立てを沖縄県に申請します。当初、6月の予定でしたが、6月沖縄県議会選挙や在沖米海兵隊のグアム・辺野古パッケージ移転の見直しなどで、申請が8月以降へとずれ込むと見られています。しかし、沖縄防衛局が公有水面埋め立てを申請しても、「現行計画では環境保全は不可能」とする環境アセス評価書の知事意見が基準になるので、承認されることはありません。この姿勢を沖縄県知事に堅持させるためにも、今までにまして「基地ではなくジュゴン保護区」の運動を強める必要があります。9月韓国済州島で開かれるIUCN(国際自然保護連合)第5回世界自然保護会議で、日本政府にジュゴン保護の勧告・決議の履行を求めるキャンペーンを強めることが重要です。



上:敗戦の弁を述べる伊波元市長。

普天間基地閉鎖へ、新たな決意を！

左:雨の日も風の日も、毎日午前8時30分から午後8時まで、宜野湾市役所の駐車場の出入り口2か所で監視行動を続けました。

さよなら原発
3.11関西1万人行動



3月11日、東日本大震災から1年のこの日、全国各地で、脱原発の集会・デモが行われました。SDCCは関電本社包围行動と、中之島公園の集会・デモに参加しました。署名がたくさん集まり、IUCN記念缶バッジもたくさん売されました。大阪では、中之島公園一帯に7000人、扇町公園に8000人が集まりました

「辺野古・違法アセス訴訟」集中審理に参加して



2月1日～2日、那覇地方裁判所で開催された「辺野古・違法アセス訴訟」集中審理に参加しました。公判に先立っての地裁前集会で、ヘリ基地反対協の安次富浩さんは「最近朝刊を見るのが楽しみだ。ここまでやってくれるかという気持ち。局長・大臣は辞任してもらう」「知恵、粘り、怒りの魂の三つがあれば国家権力に勝てる！」と挨拶しました。また、金高弁護士は、「高見沢前局長に法廷に立ってもらう！」と決意表明しました。

1日目の陳述は、東恩納琢磨さん、渡具知智佳子さん、大西照雄さんです。

渡具知智佳子さんは「市民投票で勝ったのに基地建設をしようとしている。怒りがこみ上げてくる！」「子どもたちは、日本はおかしな国だと思っている」「中立の立場で、一人の人間として正しい判断をして欲しい」

3名の意見陳述は、これまでの運動の歴史を振り返って、いかに国が辺野古への基地建設を強引に進めてきたか、いかに地域住民があきらめず闘ってきたか、そして辺野古・大浦湾の自然をこのままに残していくのか、熱い思いが証言として語されました。

2日の陳述は、桜井国俊さん（沖縄大学）、花輪伸一さん、真喜志好一さんでした。

元WWFジャパンの花輪伸一さんは、「非科学的な辺野古アセス評価書に関して」と題して、アセス前後に行われた「現況調査」なるものを批判。また、海草藻場の保全に関しては、「分布域の変化が台風などの影響で激しい中、広範囲の保全が必要」「評価書では、生物多様性については触れられていない」と批判。「科学的でも合理的でもないこれまでで最悪のアセス」であり「アセスをやり直すべき」と断罪しました。

（首都圏 三村昭彦）



龍谷大学で環境教育ミーティング

1月21日に龍谷大学で京都・環境教育ミーティングが開催されました。SDCCはフィリピンのクリティカルハビタット(保護区)の事例発表とブース出展を行いました。環境教育ミーティングは市民団体・行政・企業・専門家など多様な人たちが事例発表や出展を通して、互いを知り、繋がっていくというイベントで、環境教育学会や環境省からも注目されています。8年目になる今年は朝から夕方まで、77件の事例発表があり、300人の来場者がありました。SDCCの事例発表にも25名が参加し、「日本のジュゴンの話は知らなかったけど、フィリピンの話を聞いて興味が出てきた」と言ってくれた方もいました。ブースにも子どもから環境のことを学ぶ学生、ご年配の方まで色々な人が訪れ、ジュゴンフラッグもたくさん集まりました。環境教育というと、一昔前は自然体験やライフスタイルが主でしたが、野生生物や原発、沖縄、坐禅をテーマにした事例発表もありました。環境というテーマの広さと深さを多くの人が認識し始めているのだと感じました。

（関西 正阿彌(しょうあみ)崇子）





カンジュン村国際平和会議に参加

2月24日から26日、韓国済州島のカンジュン村で開催された「済州島国際平和会議」に参加しました。9月のIUCN済州島大会を控え、カンジュン村で建設が強行されようとしている海軍基地建設地を知つてみようと思い切って参加しました。

23日に済州島カンジュン村に入ると、村中に張り出された横断幕や基地反対の黄色い旗に驚きました。

24日、韓国最高峰のハルラ山のふもとにある「4.3事件（注）記念館」で、まず博物館を見て午後からが平和会議。カンジュン村の海軍基地建設が、対中国の前線基地であり東アジアの緊張を激化させ、貴重な自然と住民の生活を破壊するものと批判されました。SDCCからは「沖縄を基地の島から平和とイノチの島に変える。ジュゴン保護運動をつうじて」と題して、ジュゴン保護区づくりが住民の生活と平和を守るお話しました。

緊急署名はこちら

<http://www.thepetitionsite.com/1/save-gangjeong-village/#taf>
http://www.avaaz.org/kr/save_jeju_island/?woneUcb

（注）4.3事件

1947年3.1節の「単独選挙反対（南だけの建国に反対し、統一国家を求める）」デモに警官が発砲し、民衆がゼネストで対抗。1948年4月3日、民衆弾圧に抵抗する南労党が警察署を襲撃。軍・警察がこれを弾圧するために一般民衆を巻きこんだ大虐殺事件です。



基地予定地は、村の海岸の「クロンビ岩」という世界自然遺産に指定された玄武岩の岩盤湿地帯です。住民は生活の場として、そして神聖な場として長くこの場所を大切にしてきました。自然を守ることはそこに生きる人間を守ること。基地はいらない。思いは同じであると改めて思いました。私の帰国後、3月7日より韓国海軍は、大量の警官隊を動員して住民を排除し、「クロンビ岩」の爆破作業に着手しました。まったく許せない暴挙です。ぜひ抗議の緊急署名にご協力ををお願いします。

（関西 松島洋介）



ジュゴン♡フラッグ＊ギャラリー

ちゃんぷるニュース Vol.59(昨年11月発行)でご紹介した「ブドウの木保育園」年長さんから、カラフルなジュゴン♡フラッグが届きました。ブドウの木保育園では、毎年沖縄平和キャンプを実施され、辺野古テント村も訪問されています。「ジュゴンを守りたい！基地はいらない！」の思いあふれる、かわいいリバナーが勢揃い☆



会員さん
からの報告

～皆でジュゴンづくり楽しんでいます～



♡平和の守り神 “ジュゴン” 大好き ♡

昨年6月から毎月1回集まり、おしゃべりしながらジュゴンマスコットづくりをしています。

1月は新宿の事務所からお借りしていたDVDを観ました。ジュゴンが実際に泳ぎ回るのを見るのは、皆初めてで、7歳のカヨちゃんの感想は「思ったより目が小さかった。自分たちが作っているのは痩せ過ぎ、もっと綿をつめた方がいいね。」に一同納得！！

又、ただ可愛いだけでなくジュゴンの保護、基地反対等の目的が見えるから続けられるとの声も。マスコットづくりでひと区切りつくと、お茶タイム。いつも原発のことや被災地のことが話題に。昨年11月3日には、"原発なくせねりまアクション" に皆で参加しました。

黄色いかざ車に、いくつものジュゴンをつけてジュゴン

保全もアピールしました。これからは、もっと署名活動にも力を注ぎ、地球の守り神ジュゴン保護運動に参加していきます。

(新日本婦人の会 そよかぜ班 佐久間 照子)



3月4日本澄寺

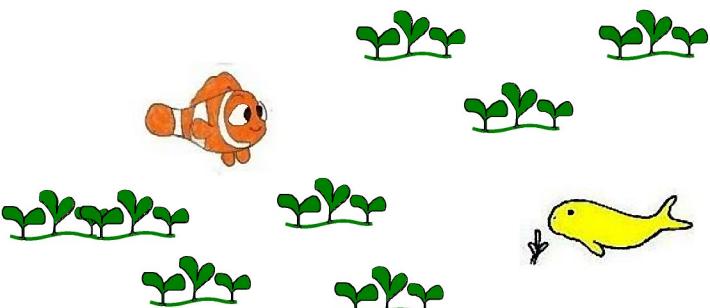
『福島・沖縄のいのちの話＆ライブ』 に参加しました

雨模様の中、境内でジュゴンブースを出し、活動をアピールさせて頂きました！

本堂では1部に、鎮魂の思いを込め千羽鶴を折りながら、日々の暮らしの情報交換やつながりが持てる場にと『原発・震災避難者交流会』が持たれました。今後ますます、このような場が必要になってくると思います。

2部は海勢頭豊バンドの『いのちのライブ』、フクシマ、切尔ノブイリに思いを寄せて歌われた“山鳩”には涙ぐんでしまいました。3部の林敬次医師のお話は、切尔ノブイリの調査や福島訪問を通しての貴重な内容でした。今なおフクシマで暮らす人々、子どもたち、被爆し続けているのだという現実に何とも言えない思いです。

基地問題もそうですが、この国はつくづく人の命を大切にしない…。これから現実になってくるであろう厳しい状況に向き合い続け、「臆病」から脱し、一人ひとりが強くな



大阪・高槻の本澄寺本堂前にて

り勇気を持って、平和の歴史を再び創りあげていきましょう。豊さんの深い愛に満ちたうたはみんなを癒したことでしょう。

(関西 池側恵美子)

濟州の四・三事件

～さうむ・コラレ～

2月20日に、濟州島のシネマ文化センターで「GAMA一月桃の花」の試写会を行ってきました。韓国語字幕付きで、四・三事件の犠牲者遺族会の方たち数十名に観て頂きましたが、充分に内容は伝わったようでした。そこで今後、この映画を多くの濟州島民に見てもらい、沖縄戦についての認識を如何に共有させるか、との話し合いがもたれました。

1948年4月3日を起点に起こった濟州四・三事件の犠牲者は五万人とも言われています。沖縄で日米決戦を行った後、米軍は次なるターゲットとして濟州島に上陸するはずでした。ところが広島長崎と原子爆弾を投下された日本は8月15日をもって降伏し、濟州島民はいきなり日本軍からも解放されました。戦前から日本に留学していた若者たちも島に帰り、民族独立の夢を掲げて平和な時代がくるものとばかりに思っていました。

しかし朝鮮半島を南北に分断して、南を支配下に治めようとする米軍によって、その夢は打ち砕かれてしまったのです。日本国憲法が施行された1947年の翌年

4月3日に、米軍の圧政に抵抗するように武装蜂起が行われ、それを討伐する形で、村ごと学校ごとの殲滅焦土作戦が一年余にわたって行われ、島民が大量虐殺された事件。これが濟州島という美しい島で起きてしまったのです。

韓国の長期に渡る軍事政権下で、この事件を語ることはタブーとされてきました。しかし、金大中以後に民主化が進むにつれ、事件が明るみに出るようになりました。今では、ハルラ山の中腹にあるオルムの広大な場所に平和公園が建造されて、毎年犠牲者遺族会による慰靈祭が行われるようになっていますが、李明博政権下での右翼の妨害などがあるとのことでした。

そこで私は毎年遺族会との連帯を深めて沖縄の実情を訴えてきたわけですが、そのためにも「GAMA一月桃の花」を広げることは、カンジョンの海軍基地拒否につながる大きな意義があると思ってのことでした。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC共同代表）

FM横浜にジュゴン登場

2月6日、FM横浜の「E-ne!～good for you」という番組に電話出演し、「ジュゴン♡フラッグキャンペーン」の紹介をしてきました。9月韓国濟州島での国際会議に向けて進めているキャンペーンであること、フラッグを通じて国際会議に参加してほしいことなど、アピールしました。実はこの番組には、一昨年も別のスタッフが電話出演しています。

そして、Think the Earthという「エコロジーとエコノミーの共存」をテーマにしているNPOのwebサイトで、「日本のジュゴンを平和と自然保護の象徴に、世界自然保護会議が9月開幕」と題して、沖縄ジュゴンの状況や、フラッグキャンペーンのことがニュースになりました。色々な場面で取り上げられて、キャンペーンが広がっています！

去年の秋から今までに、450枚ほどのフラッグが集まっています。主にイベントや街頭で集めていますが、だんだん事務所への郵送も増えてきました。1000枚以上集めて、濟州島に持っていくと思っています。皆さんも、どんどん送ってくださいね。

（関西 山根富貴子）

フクシマ写真展

2月24日・25日の2日間に「フクシマ写真展～ Chernobylからフクシマを考える」と題し、SDCCそれとコトパンジャン・ダムの被害住民を支援する会の方たちとともに一緒に共同写真展となりました。

今回の企画は福島原発事故という関心の高い写真展との共催だったこともあり、たくさんの方が熱心に写真を見てくださいました。展示中は原発問題だけでなく、普天間基地移設のことも関心を持ってくださる方が多くいて、大いに今後の私たちの行動の励みとなりました。

（関西 上田千鶴）



INFORMATION

第12回SDCC総会を開催します。ご都合のつく方は、ぜひご参加お願ひいたします

日時：4月21日(土)午後6時～ 場所：渋谷区神宮前穂田区民会館(JR原宿/東京メトロ明治神宮前駅)

第12回総会概要・方針案

(情勢)

「(新基地建設による)環境保全措置は不可能」との沖縄県知事意見が出ました。
新基地建設のための埋め立て承認申請は認可されない現状です。

(概括)

- IUCNに向けて国際的なつながり(フィリピン・クリティカルハビタットについての交流、韓国济州島カンジョン村での基地建設に反対し海を守る闘い)や、名護市との交流が進みました。また、環境省がSDCCの要求で、ジュゴン保護覚え書き署名の地域会議に参加しました。
- 東日本原発大震災をふまえて、基地も原発もいらない運動を進めてきました。
- ジュゴン保護区を求める署名1万筆を提出しました。累計5万5千筆
- SDCC紹介の新リーフレットを発行しました。
- 会費、カンパの減少で、初めて赤字決算となりました。

(方針)

9月IUCN第5回世界自然保護会議に向けて、辺野古の新基地建設を断念させましょう！

- 2012年IUCN(チエジュ)で、
 - IUCN勧告・決議の履行と埋め立て反対署名を集める。
 - ノレッジカフェやポスターセッションを国際NGOや名護市とともに取り組む。
 - 9・12平和コンサートを国際NGOとともに韓国で取り組む。
- ジュゴン保護区づくりにむけて、自主ルールづくりを名護市や地元住民とともに進める。
- 赤字財政の克服を進める。

「ちゃんぷるニュース」をイベントで広げる。

新しい一筆箋を制作するなど事業活動を進める。

2011年度決算

収入	2,532,865
支出	2,402,301
収支決算	130,564
借り入れ	264,810
実質決算収支	▼134,246

※4/15(日)はジュゴンの日

あっちでこっちで、ジュゴンでトレイン！

アクション1. 13時大阪駅陸橋上集合

着ぐるみジュゴンと一緒に環状線をまわります。

アクション2. 全国各地でジュゴンをアピール

※4/21-22 アースデイ東京2012

@代々木公園 ブース出展します



※7/6(金)～8(日)じゅごんの里ツアー

今年も、現地訪問ツアーを開催します。

詳しくは、次号で。

※6/16日(土)すいた環境教育フェアに出展

沖縄の写真家・牧志治さんの「うみさんぽ」を展示。

Editor's Note

大阪・京橋の連絡橋の上で、月に1度の街頭行動を続けています。ここはチラシの受け取りが、とてもいいし署名もフラッグも、いっぱい集まるグッドスポットです。辺野古の写真を見ながら、ゆっくりお話ししている方もいるし、沖縄出身の方ともよく会います。街頭は、沖縄ジュゴンのことを広く知らせることのできる大切な場です。これからも、ずっとがんばりますね。(Y)



ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.61 2012年3月20日発行

ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)

Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-21

第1千代田ビル301 なかま共同事務所内

○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp

(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302

TEL/FAX 06-6353-0514



ちゃんぷるニュース購読会員募集中！年会費2000円。お問い合わせは上記事務所まで